

会議名	第3回大甕・太田地区学校適正化検討協議会
日時	令和8年1月14日（水）18：30～20：00
場所	大甕生涯学習センター 研修室
参加者（庁内）	教育長、教育委員会事務局長ほか
参加者（庁外）	大甕・太田地区学校適正化検討協議会委員及びオブザーバー 15名

【説明事項】

（1）義務教育学校について **資料1**

より義務教育学校についてイメージをしていただくため、他市の事例について動画視聴の後、意見交換。

①主要な意見

- 9年間の一貫教育により、生徒を長期的に把握し、課題などを共有しやすくなる点が良い。
- 7年生（中学1年生）になった際のギャップや、9年生までのリーダーシップ育成に懸念がある。
- メリットを最大限に活かし、デメリットを強みに変える視点が重要。地域住民や地元企業と連携し、オリジナリティを出すことで良い学校づくりができるのではないかと。
- 他校との交流の機会も重要になる。
- 話を聞き、デメリットに納得した。そこをうまく解消しないといけない。
- 地域の方も学校に集まりやすいというメリットがあったが、太田地区では地区の運動会を行っており、地域の拠点としての学校になっていくのではないかと思う。また、小中学校の先生の指導内容や文化の違いがあるため、相互理解を進める必要がある。
- 姪っ子たちが中学校に上がったときに、中一ギャップを感じていたようであったため、スムーズに小学校から中学校に移行できるのがよいと思った。
- 原三中にそんなに子どもがいないのがこれから課題になってくる。他校との関わりや地域の方との交流がないと、高校入学や就職などの際の人間関係の構築が苦手になってしまうなど、中だけでこもってしまうことのデメリットもあると思う。

②質疑応答

特になし。

③決定事項・今後の対応など

特になし。

【説明事項】

（2）小規模特認校について **資料2-1、2**

より小規模特認校についてイメージをしていただくため、他市の事例について動画視聴の後、意見交換。

①主要な意見

- 書写の指導ボランティアなど、外部講師の授業があると楽しいのかなと思った。距離が他の学校と離れているので、人が集まるのが心配。
- 区域外就学で他地区の学校に通っている太田小学校に来るはずだった子たちが、改めてこちらの学区に来てくれればと思う。

- 児童・生徒数の増加が期待できるが、栃木市の事例のように必ずしも増えるとは限らず、うまくいくか心配。
- わざわざ選んで来てもらうだけの魅力をどう出すかが最も重要であり、魅力があったとしても保護者に周知していくのも難しい。
- 幼稚園・保育園での友人関係を理由に、学区外からでも就学できるようにすれば、生徒数の確保につながる可能性がある。
- 制度の対象が中学生にも広がることを周知すれば、大規模校に馴染めない生徒の転入なども見込めるのでは。また、制度の詳しい中身まではなかなかわからないので周知をしっかりとしてほしい。
- 魅力ある学校づくりには、地域の協力が不可欠であるが、地域の協力を得るには学校も地域課題の解決に協力する双方向の関係づくりが不可欠である。また、大規模校で馴染めない子が小規模特認校の学校に来ているという話があったが、あまりそこに特色をだしてしまうと、少ない人数のところに学校に馴染めない不登校の子が多くなってしまい通常の学校運営が成り立たなくなってしまうこともある。学校の教育方針に賛同してもらえそうな形でないと、元から通っている子どもたちを今度はうまく育てていけなくなるかもしれない。特色あるといっても、どこの学校も特色ある学校づくりを行っているため、難しいところだと感じた。
- 小規模特認校制度では、子どもの数を制限できるのが良い。少な過ぎず多過ぎず良いと思うので、ずっとこの制度は使っていければと思う。

②質疑応答

No	委員からの意見	事務局からの回答
1	栃木市の事例で4校のうち2校は小規模特認校制度で継続して児童数が増えており、その要因として市の中心近くであるということと大規模校が隣接していることがあったが、大規模校とはどういうことか。	児童生徒数が多い学校であり、大きな学校だと馴染めない子どもが、近くの小規模特認校に入学していると伺っている。
2	コミュニティスクールとはどんなものか。	学校運営協議会を設置した学校である。協議会が学校運営に参画し、特色づくりなどを提言できる双方向の仕組みであり、南相馬市ではまだ導入されていない。
3	小規模特認校へは、南相馬市内全ての学区から通うことができるのか。	現時点では市内全域を考えている。

③決定事項・今後の対応など

今回の説明等も踏まえながら、これらの制度の要否について引き続き検討を進める。

【次回会議の予定】

会場の空き状況を確認の上、別途連絡。